

が基
規模
い
開発

ヒトエグサ養殖についての技術指導

(干潟地帯の養殖適位置の調査)

瀬底正武

ヒトエグサの養殖は、干潟地帯が主漁場となっている。そこにおけるノリ網の設置は、従来の潮位観測による方法で網の高さを決定し実施しているが、この方法では十分な設置方法とはいえない。これから記述することは、干潟地帯で網を設置する場合の養殖適位置の調査について、恩納村屋嘉田潟原と沖縄市泡瀬入江の〈例〉を図、表で紹介する。尚、この調査と同時に網の高さを決定するため、従来の方法（潮位観測、生育層調査）も平行して実施したが、ここでは、前述した調査についてのみ報告する。調査に当り積極的な御協力をいただいた恩納漁協理事、吉山盛喜氏に対し深く感謝いたします。

I 調査方法

調査網は図-1、2に示されるように、波打ちぎわの潮干帯、最上部から、沖に向かって、240 m ~ 280 m（地域や場所によって調整）の範囲に網を設置し、さらに、位置決定のため、干潟を下部、中部、上部、最上部の4段階に分けて、生育状況を調査した。

(1) 恩納村屋嘉田潟原の場合

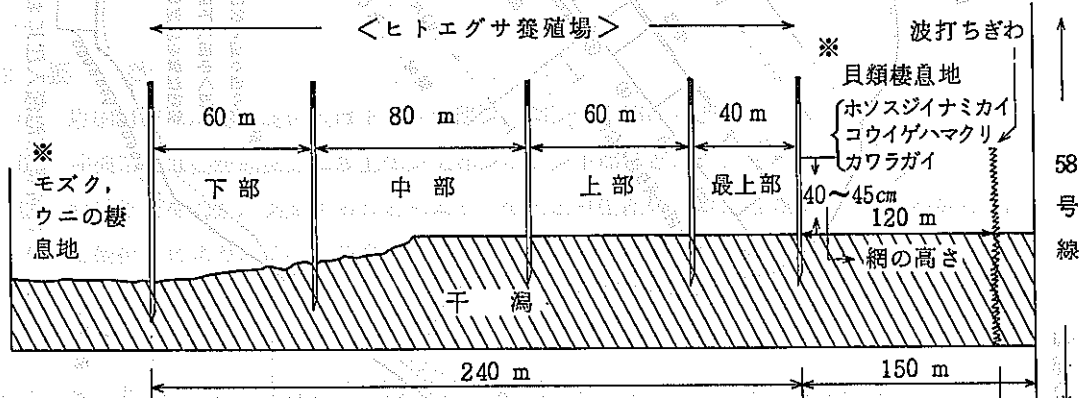


図-1； 屋嘉田潟原におけるヒトエグサの網張位置

(2) 沖縄市泡瀬入江の場合

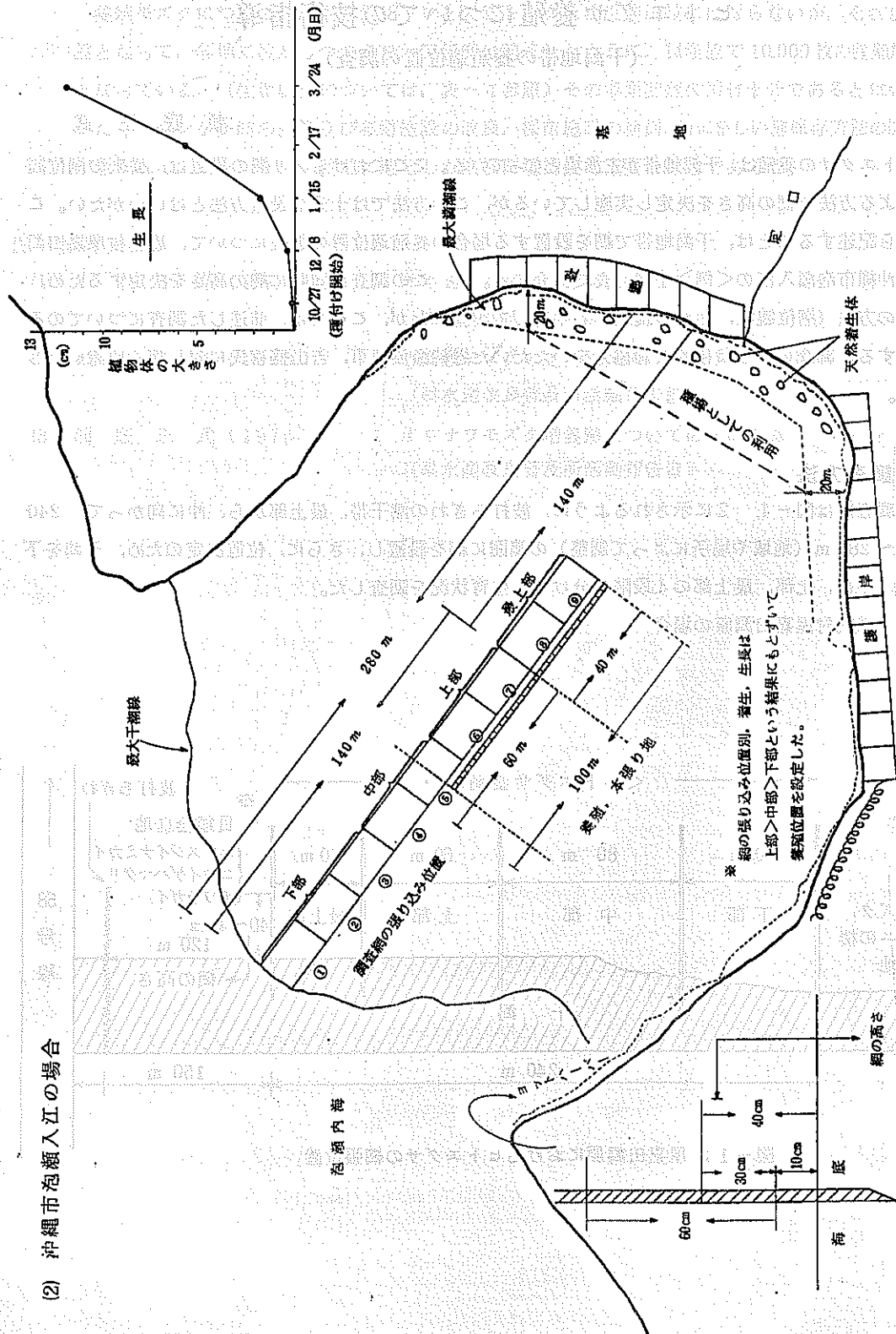


図-2； 沖縄市泡瀬入江におけるヒトエグサの網張り位置

II 諸
 園
 よく
 わる
 域で
 植が
 でき
 現在
 下地
 い
 苗も
 10
 め
 当十
 も取
 III (1
 (2
 (4
 IV (

II 調査結果

恩納村；結果は、図-1、3に示されるように、着生、生育とも中部から下部にかけてもっともよく、上部から、最上部ほど

わるい。したがって、この地域では、下部を主体にした養殖がより効果的な養殖へ展開できるものと考察される。

現在実施している養殖位置は、下部に移動し、養殖を試みているが、従来の位置に比べ採苗及び生育とも順調で生産量も従来の300～400kg（網

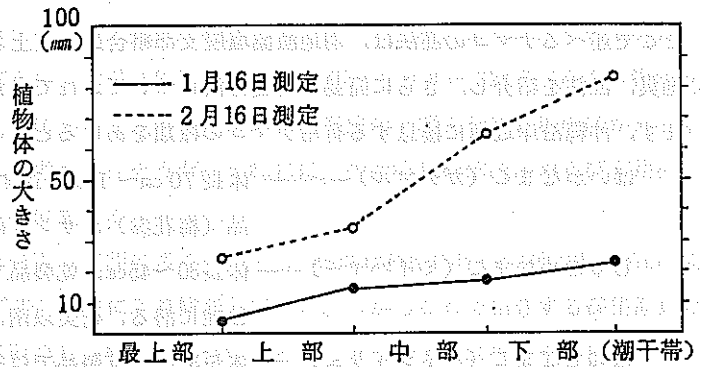


図-3；生育位置別ヒトエグサの生長

100枚の場合)が、移動したことにより、53年度は500～700kgの生産増が見込まれている。

沖縄市；図-2に示されるように、沖縄市の場合には、恩納村とは逆に中部から下部にかけてもっともわるく、上部から最上部ほどもっともよいという結果にもとづいて養殖位置を設定した。当地においては、現在の所、養殖は実施されていないが、これから計画される場合には、調査結果を十分考慮して、実施すべきである。

このように、地域や漁場により、養殖適位置がことなることが、今回の調査で明らかになった。今後ともヒトエグサ養殖はますます増える傾向にあるが、初める前には十分に漁場選定調査を実施して、取り組むべきである。

III 要 約

- (1) 恩納村では、養殖適位置は下部>中部>上部>最上部ほどよい。
- (2) 沖縄市では養殖適位置は最上部>上部>中部>下部ほどよい。
- (3) 養殖位置を調査、実施することにより、従来より生産の増が見込まれることがわかった。
- (4) 養殖位置により、着生、生育がちがうことがわかった。

IV 参考文献

- (1) 瀬底正武(1970年～71年)；沖縄におけるヒトエグサの増殖に関する研究-I, II, III(水試報告書)
- (2) 瀬底正武(1976年)；ヒトエグサの増養殖についての技術指導(県水産改良普及所活動報告書)